

# 陳 情 文 書 表

(子ども若者はぐくみ局)

受理番号	2385	受理年月日	令和4年2月4日
件名	発達障害を抱える子供に関わる関係者の専門知識の向上等		
要旨	<p>コロナの収束が見られない中、医療関係者の方々、そして、国民の命を守るために日々戦っている先生方に感謝の気持ちを心よりお礼申し上げます。</p> <p>まず初めに、発達障害イコール大きな壁と思ってもらえると、分かりやすいかと思う。また、区役所にある子どもはぐくみ室の方にもいつも相談に乗ってもらい、他の方からは、どんな困りごとがあるのかも聞き出してきて。声を上げるのをやめてしまい諦めている人たち。目の前の子供のことで精一杯。今の制度にさえ気付いておらず、改善してもらおうエネルギーがない。早くに診断名が付いたが、知的には問題はなく普通学級で過ごせるものの、不登校。私は、その中の一当事者として見逃されてきた発達障害（自閉症、ADHD、学習障害）、特別学級でもなく通常学級にいる子供たちの困りごと、そばで見守る親の悲しみ、辛さについて陳情したいと思う。</p> <p>私は京都生まれ、京都市育ちの3児の母である。幼稚園免許、保育士免許を取得し、現在、幼稚園の補助として働いている。</p> <p>まだまだ学校現場では目に見えないしんどさへの理解が弱い。なぜできないのか。できて当たり前。してきて当たり前。時にはさぼっているのかと思われがちであるが、目に見えない努力をしており、すごく疲れてできないのである。どうか、耳を傾けてあげてほしい。無理をさせないであげてほしい。例えば、子供の現状や診断書を踏まえて、中学校の大量の提出物を休ませてあげてほしい。みんなと同じことができるところとできないところがある。それが、特性を持った子供の特徴なのである。</p> <p>子供は環境、場所、関わる人によって特性が強く出たり、落ち着いたりする。特に子供に関わる仕事をされている先生方は重要である。担任によって子供たちの人生が左右されると思ってもおかしくないぐらい、担任は子供、保護者にとっても大きな存在である。</p> <p>診断書の提出を受けたら保護者任せにせず、学校自身が主体的に外部の専門家に協力を仰ぐなどしていただきたい。保護者から診断書を学校に提出しても、それにふさわしい対応がされない現状を改善していただきたい。例えば、呉竹総合支援センターへの相談時には、サポートチーム（医師、大学の特別支援の先生、心理、教育委員会、構内の先生（学校の先生も含む。））を立ち上げてほしい。あえて診断書を提出したのは、子供のことを分かかってほしい、支援してもらえんと思っていたのに、残念ながら思いは伝わっていなかった。一人担任に対するクラスの人数の多さや教員の人員不足を改善することも願う（現場の先生に個別に支援をしてもらうには限界がある。）。専門の先生のアドバイスによると、支援の要る子供に合わせて、目と耳の両方から入りやすい適切な授業をすることにより、全ての子供にとっても分かりやすいものとなる。</p> <p>隠れ学習障害を持っている子供は、もっと分かっている可能性がある聞いた。学校の先生方には、本当に感謝している。しかし、通常学級にいながら発達障害を持っている子供たちのしんどさを伝えても分かってもらえない辛さが悲しすぎる。そして、この声に寄り添っていただきたい。</p> <p>子育ては、本来楽しいはずである。しかし、今の行政、教育のやり方、世間の理解不足では、親も子供も生きづらい社会である。京都府、京都市の子供たちには、自分たちで夢を切り開き、個々の力を発揮できるような環境、支援をするよう当事者たちの声にしっかりと耳を傾け、寄り添い、どうか改善していただけるよう力を貸していただきたい。</p> <p>ついでに、保育園、幼稚園、学校、各専門機関など子供に関わる方たちの専門知識の向上と支援策の強化を願う。</p>		
陳情者			
回付委員会	教育福祉委員会		